

【資料2】貸出サブグループからの報告内容

- 第12回検討委員会（2020年2月25日）において、円LIBORからのフォールバックが生じた場合のスプレッド調整にかかる検討を貸出サブグループにおいて行うことについて合意され、第13回検討委員会（同3月31日）において、具体的な検討事項の提案がなされ、メンバー間で認識が共有された。
- この点、貸出サブグループにおいて、市中協議の取りまとめ結果やグローバルな平仄の観点等から、スプレッド調整手法としてフォールバック・レートごとに「過去5年中央値アプローチ」を軸に検討を進め、意見照会を実施した。意見照会結果は（1）のとおりであり、ターム物リスク・フリー・レートおよび0/N RFR複利（後決め）を利用する場合のスプレッド調整について、検討委員会として推奨することを要望したい。
- また、フォールバック・レートについて、フォールバック条項の導入に係る交渉や社内整理など実務上の観点から、さらなる整理があったほうが有用との声が金融機関・事業法人双方からあったことを踏まえ、検討委員会による貸出分野における推奨要否やその内容について意見照会を実施した。意見照会結果は（2）のとおりであり、検討委員会として推奨することを要望したい。
- 全国銀行協会から、貸出商品について、金融市場参加者が主体性を持って代替金利指標への移行を推進していくうえで、対応の目安となる時期を設定することが重要との認識のもと作成された貸出分野における移行計画（案）について提示があったことを踏まえ、意見照会を実施した。意見照会結果は（3）のとおり。

（1）スプレッド調整について

- ✓ フォールバック・レートとして、ターム物リスク・フリー・レートおよび0/N RFR複利（後決め）を利用する場合のスプレッド調整に関して、市中協議の取りまとめ結果やグローバルな平仄等を踏まえ、①「過去5年中央値」（移行期間なし）とすること、②ターム物リスク・フリー・レートの過去データについては、0/N RFR複利（後決め）を利用すること、③具体的な数値については、Bloombergから公表されるISDAスプレッド（過去5年中央値、移行期間なし）を利用することについて、全ての先から賛同が得られた。
- ✓ なお、LIBORをフォールバック・レートとする場合のスプレッド調整手法の検討に当たっては、「過去5年中央値アプローチ」を利用する場合の経済的価値等の課題が指摘されたことから、継続的な検討を行うことについて大多数が賛同した。

（２）貸出のフォールバック・レートについて

- ✓ 円 LIBOR のフォールバック・レートとして、グローバルな平仄や RFR ベースの金利への選好、サブグループにおいてスプレッド調整に関する検討が完了している等の観点から、以下のウォーターフォール構造とする案が望ましいとの意見が示され、最多の支持を獲得した。

第１順位	ターム物リスク・フリー・レート
第２順位	0/N RFR 複利（後決め） ^１
第３順位	貸付人が、[関連監督当局等による推奨内容又は市場慣行を適切に考慮した上で]適切と認め、借入人に通知するレート

- ― 他方で第２順位を「TIBOR^２」とするウォーターフォール構造についても、スプレッド調整について整理されることを前提に、前決め金利への選好、現行の事務・システムとの親和性、当事者の体制整備への配慮等の観点から一定の支持を獲得した。このため、第２順位を 0/N RFR 複利（後決め）とする上記のウォーターフォール構造を検討委員会が推奨する場合においても、“当事者合意により、TIBOR を含む上記以外のウォーターフォール構造や単一のフォールバック・レートを選択することは当然妨げられるものではない” という趣旨の記述を求めることとしたい。

（３）移行計画

- ✓ 全国銀行協会が提示した貸出分野の移行計画（案）について、大多数が賛同した。また、市場全体の目線を揃える観点から、ARRC と同様、本邦においても移行計画案を公表することが有益との意見が複数みられた。

以 上

^１ ARRC の検討も踏まえ、第２順位において 0/N RFR 単純平均（後決め）とすることも検討すべきとの意見もあった。

^２ TIBOR については、事前移行において活用する有力な選択肢の一つとの意見も複数あった。